

ユモトマムシグサ *Arisaema nikoense* Nakai

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2。温帯～亜高山性の植物で、愛知県は分布域の南西限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、周りにいくつかの子球をつけ、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 8～30cm、緑色または紫色で雲状紋はなく、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は通常 5 個、葉軸が短いので互いに接近してつき、長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯状の鋸歯がある。花期は 5～6 月、仏炎苞は緑色で、葉よりやや早く開き、葉より高い位置につき、筒部は長さ 3.5～8cm、口辺はあまり開出せず、舷部は卵形、長さ 4.5～13cm、先端は鋭頭で、白糸は目立たない。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は棍棒状、先端は直径 4～12mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 51353, 1989-4-30）。茶臼山周辺に生育するだけである。

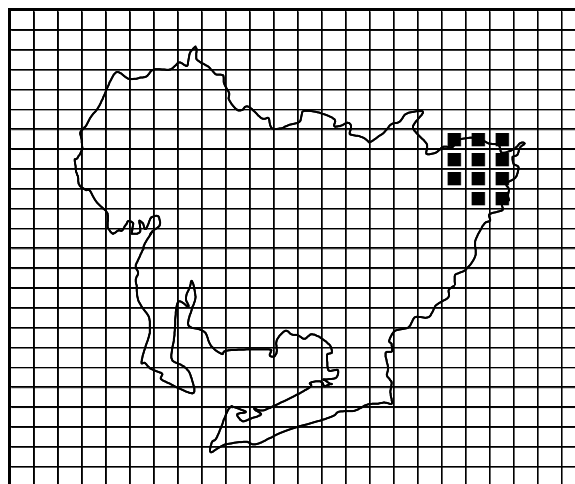
【国内の分布】

本州中北部に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。特定の場所に小群落があるだけという生え方ではないため、1 回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化によりいつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県では温帯性植物が集中して生育しており、生物多様性を保全する上で極めて重要な場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発は避けるべきである。

【特記事項】

仏炎苞が紫色系の亜・変種は、愛知県には分布していない。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.208, 平草本 I p.133, 平新版 I p.98, SOS 旧版 p.102.